

25. 3. 1

佐倉市

教育センターだより Vol.29

平成25年3月1日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486) 2400 http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0_6.html

新しい一步を

所長 林 輝 彦



平成25年1月29日(火)佐倉市美術館において、佐倉市長 蕨和雄様、佐倉市議会副議長 村田穰史様をはじめ多数の御来賓の皆様をお迎えし、開設10周年記念式典を挙行いたしました。御来賓の皆様より心温まるご祝辞を頂戴するとともに、開設の趣旨やこれまでの歩みを振り返る機会となり、改めて所員一同職責の重さを実感したところです。さらに、教育センターが市民や学校関係者の皆様に頼りにされるよう職務に精励してまいる所存です。

式典に続く教育センター等報告会では、3名の教育センター指導主事と上志津小学校の松橋教諭が教育課題の調査・研究の成果の一端を報告させていただきました。課題として、保護者や市民の皆様により多く参加していただき、学習機会の場になるような内容や実施上の工夫が必要であると考えております。

さて、例年3月の年度末に合わせて佐倉市学習状況調査報告書を各学校に1部ずつ配付しておりましたが、今年度はより活用していただくことを目的に配布時期を4月上旬に、また配付部数を3部とする方向で準備しています。現在、各学校では、次年度の教育計画等の検討をしている時期かと思います。過日の教頭会議で配付した、佐倉市学習状況調査結果及び速報版を次年度の教育計画の策定にお役立ていただければ幸いです。

また、児童向けに好学チャレンジプリント3学期版を今後配付いたしますので、各学校で補習や家庭学習の課題としてご活用いただき、児童一人一人が基礎基本をしっかりと身につけて進級・進学してほしいと願っています。

教育センターでは全国学力・学習状況調査の動向を踏まえ、また「理科離れ」と言われる問題の解消に向けて、平成25年度に「理科」の学習状況調査問題を作成し、試行的に調査を実施する計画です。その際には、各学校にご協力をいただくことになると思いますのでよろしくお願ひいたします。

今年度より教育センターに業務移管した特別支援教育では、指導主事がタイムリーリードバイスで約70回学校を訪問させていただきました。そのニーズの大きさから特別支援教育の推進が各学校における大きな課題となっています。教育委員会ではこうした実情を鑑み、予算要望を行い、結果次年度支援員を2名増配置することができました。今後も学校の支援に全力を尽くしてまいります。

最後になりましたが、この一年間教育センター事業にご理解とご協力をいただきました多くの皆様に感謝を申し上げますとともに、今後も佐倉市教育の向上・発展のために努力してまいります。

- 平成24年度の主な事業
- ・佐倉市学習状況調査
 - ・教育課題の調査研究
 - ・好学チャレンジプリントの作成
 - ・道徳副読本「佐倉の道徳」
 - ・教育相談基礎講座
 - ・特別支援教育・就学指導
 - ・適応指導教室・教育相談
 - ・教育センター開設
 - 10周年行事

教育センター10年の歩み

- 平成15年 佐倉東小学校に開設
- 平成16年 第1回センター等報告会
佐倉学カリキュラム開発研修会
(～平成18年度)
- 平成19年 教育相談基礎講座
- 平成20年 適応指導教室・相談業務開始
- 平成22年 佐倉学道徳副読本配付
- 平成24年 特別支援教育移管

「センター開設10周年記念行事(平成24年度佐倉市教育センター等報告会)」から

教育センターは、平成15年4月に開設され、平成24年度で開設10年となりました。今年度は、第1部「センター開設10周年記念式典」第2部「センター等報告会」として、開催いたしました。本ページでは、その一部を紹介いたします。

概要

- | | |
|--------|--|
| ○ 会 場 | 佐倉市立美術館 4階ハイビジョンホール |
| ○ 参加人数 | 85名(市民含む) |
| ○ 第1部 | センター開設10周年記念式典
・主催者挨拶(教育長)
・来賓挨拶(佐倉市長、佐倉市議会副議長)
・センター10年の歩み |
| ○ 第2部 | センター等報告会(発表者及び発表内容)
第1発表 教育センター 山本 健太 指導主事
「佐倉市特別支援教育推進に向けた個別の指導計画の活用」
第2発表 教育センター 水嶋 智巳 指導主事
「確かな学力と教諭等の意識や学校の取組」
第3発表 教育センター 小川 英昭 指導主事
「小学校における外国語活動に関する調査」
第4発表 佐倉市立上志津小学校 松橋 義己 教諭
「1年間の研修で学んだこと」 |
| ○ 講 評 | 千葉県総合教育センター
カリキュラム開発部長 大野 尊史 先生 |

【第1部 センター開設10周年記念式典】



佐倉教育ビジョンで示された、中・長期的な教育目標やめざすべき方向性のもと、教育センターが10年に渡って蓄積してきた調査・研究資料、教育相談業務や特別支援教育が佐倉市の子どもたちの健全な育成に効果的に機能することを期待しています。

【主催者挨拶をされる葛西教育長】

時代のニーズに合った教育課題を探り上げ、その研究の成果を市内各校をはじめ、教育委員会内の各課と共有し、佐倉市の子どもたちの確かな学力の向上、豊かな心の育成につなげるべく、教職員の資質向上に寄与していただくことを願っております。

【来賓挨拶をされる蕨市長】



教育センター10年のこれまでの取組事業(教育センター10年の歩み記念冊子より抜粋)

- ・教育課題の調査・研究
- ・センター等報告会開催
- ・佐倉市学習状況調査
- ・教育相談基礎講座開講
- ・佐倉学カリキュラム開発研修会
- ・教育相談・就学相談
- ・適応指導教室の運営
- ・特別支援教育
- ・佐倉学道徳副読本「佐倉の道徳」の発行
- ・研究紀要、指導案等の資料収集

【第2部 センター等報告会】

個別の指導計画を作成するねらい

- ・特別な支援が必要な子どもの課題を明確にする
- ・子どものもつ良さに目を向け、指導に生かす
- ・課題の改善に向けた手立てを明確にする
- ・保護者と子どもの課題について共通認識を持つ

まとめ

- 個に迫る指導を充実させ、「応援計画」を推進
- 学校の求めに応じて専門性を発揮できる体制づくり

特別支援教育の中心を担う場所として、
教育センターを機能させていく

佐倉市特別支援教育推進に向けた 個別の指導計画の活用

～各校（園）の特別支援教育の現状と課題から考える～

特別支援教育関係業務を
教育センターへ移管



佐倉市教育センター 指導主事
山本健太

確かな学力を育むための重点と考えられる取組

◆個に応じた支援や指導の工夫

- ・ドリルタイムや休み時間の支援
- ・授業形態

◆特別支援教育の充実

- ・個別支援の共通理解

◆教材の工夫

- ・好学チャレンジプリントの活用や工夫

◆若年層研修の充実

- ・人材育成
- ・教職員の質の向上

佐倉市学習状況調査の活用

- ・過去3年間のデータから各教科の課題及び各校の実態分析を行い、活用を図った
- ・好学チャレンジプリントを作成し、基礎基本の定着を図った

教職員意識調査結果から

- ・授業構成の取組では、活用より習得を意識している
- ・子どもとのふれあい、同僚との情報交換、先輩・上司からの指導・助言、校内研修の順に自身の能力開発に有効であると考えている

小学校・中学校で留意すべきこと

- ・小学校では、外国語活動をとおして、達成感や自分の力の伸びを感じるような「学びの楽しさ」を味わわせていくこと
- ・中学校では「書く」「読む」に関わる学習方法・スタイルを見直し、「話す」「聞く」学習と連動した授業の展開

今後の取組

- ・市教委主催の研修会の充実
- ・ALTの効果的な活用
- ・先進校の実践事例や情報の提供

小学校における外国語活動に関する調査

～中学1年生の意識調査結果から見えてきた成果と課題～

目的

- ・小学校の外国語活動を経験した中学1年生が、外国語活動や中学校の英語学習についてどのような意識を持っているか調査し、小学校外国語活動の指導のポイントや小学校外国語活動を踏まえた中学校の英語指導のポイントを明らかにする。
- ・小学校での外国語活動を経験した中学1年生に英語学習を指導する英語担当の教員の意識を調査し、小学校の外国語活動を行う上の留意点を明らかにする。

【佐倉市立上志津小学校 松橋 義己 先生の発表】

1年間の研修で学んだことについて、発表をしてくださいました。その中で児童が苦手意識を持つ体育科の持久走の学習について、意欲的に取り組ませるには、どうすればよいかという報告がありました。チームで関わり合いながら取り組む学習や自分なりのペースを大切にすること等、学校現場で大変参考になる報告でした。



教育センターに勤務していた当時、調査研究を佐倉市教育委員会の施策に反映させることが重要な使命の一つでした。現在勤務している千葉県総合教育センターの研究部門において、当時の調査研究が貴重な参考資料となりました。今後も佐倉市の財産ともいえる教育センターの取組を確認し、活用していただければと思います。

【大野尊史先生のご講評より】

**児童一人一人の考え方を深めるための指導法の工夫
～生徒指導の機能を生かした学び合い学習を通して～
佐倉市立千代田小学校**

千代田小学校では、生徒指導の三つの機能（自己決定・自己存在感・共感的理解）のうち、特に「自己決定」を生かした授業改善を行い実践し、個々に支援していくことで児童に分かる喜びや充実感を与える、自ら学び思考し、進んで行動できる児童の育成をめざしました。

★自ら判断できるような学習場面を取り入れ、個に応じた支援をしていけば、自信をもって自己決定できるようになるだろう。

仮説 1

★お互いの考え方を交流する場を工夫し、きき(聞き・聴き)合う力を高めれば、考えを深めていくことができるであろう。

仮説 2

図画工作科の実践（第1学年）

「さわりごこちをたしかめて」

～材料とふれあう時間を十分に確保することでイメージを広げた～



- 材料のお花紙とふれあう時間を十分に確保し、たくさんの色を準備して選択させることで、児童は意欲をもって活動することができた。
- 自由に見合う時間「みてみてタイム、きいてきいてタイム」を設定することで、互いの作品のよさを感じとりイメージを広げることができた。

道徳の実践（第6学年）

「相手のために」 カーテンの向こう

～「私」の心の変化を中心に話し合いをした。～



- 和男のことを死ねとまで考えた「私」を、ひどいと思うか当然だと思うか理由も発表させたことで、話し合いのポイントが明確になり、本音で話し合うことができた。
- 黒板につけたカーテンを実際に開けて廃墟を提示したため、児童を資料の世界へ引き込むことができた。また、一人一人じっくり考えて「私」の心の変容を吹き出しに書いたことで、相手のことを考えた深い思いやりに気づくことができた。

研究のあゆみより

“さくら”

**挑戦!わくわく!運動大好き
～進んで運動し、共に体力を高め合う児童の育成～
佐倉市立上志津小学校**

仮説 1 身につけさせたい学習内容を明確にし、技能を高め合う場や効果的な学習過程を設定すれば、児童が上達や伸びを実感でき、進んで運動するようになるだろう。

☆基本的な学習過程

《陸上》		《中・高学年》		《ゲーム・ボール》		《中学年》		《高学年》	
単元前半	単元後半	単元前半	単元後半	単元前半	単元後半	単元前半	単元後半	単元前半	単元後半
習得学習		習得学習1		習得学習		習得学習1		習得学習1	
・準備運動、ドリル		・準備運動、ドリル		・準備運動、ドリル運動		・準備運動		・準備運動、ドリル運動	
・基本となる運動		・基本となる運動						・タスクゲーム	
活用学習		活用学習		活用学習		活用学習		活用学習	
・習得した力を高める運動		・習得した力を高める運動		・メインゲーム		・メインゲーム		・メインゲーム	

子どもたちの「生きる力」を育て、地域コミュニティに生かす道徳教育 —美しい日本語の学びを通して—

佐倉市立白銀小学校

白銀小学校では、学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育とそれらを補充、深化、統合する道徳の時間をうまく機能させることに重点を置き、教師、保護者、児童、地域の人々が共通した道徳観を持ち、「美しい日本語の学び」をとおした道徳教育の実践をめざしました。

全体仮説 保護者や地域と連携した教育活動を行い、美しい日本語の学びを通した道徳観を培つていけば、子どもの「生きる力」を育むことができるだろう。

道徳教育の充実

- ・価値にせまる自作教材の開発
- ・佐倉学道徳副読本を活用した実践
- ・「言の葉」の時間の設定
- ・「諭」の時間の設定 等

道徳観・実践力の育成

- ・生活目標の中の論語
- ・「美しい言の葉集Ⅰ・Ⅱ」の活用
- ・白銀っ子しぐさの活動
- ・「立腰」の取り組み 等



立腰の姿勢

自作教材を使った授業



論語の暗誦



「美しい言の葉」を使っての学習

研究紀要より

学びの窓

上志津小学校では、平成22年度より、千葉県教育委員会から体力づくり推進モデル校の指定を受け、3年間「運動好き」な子の育成を目指して実践を行ってきました。教科体育の充実に止まらず、教科外体育・特別活動、日常活動、地域・家庭への発信等様々な取り組みを行っています。

仮説2 生活の中に運動に親しむ活動を取り入れれば、運動の日常化をはかることができ、進んで運動するようになるだろう。

運動の習慣化

- ・外遊びの奨励
- ・ロング昼休みの活用（週1回木曜日）
- ・縦割り班遊び（月1回）
- ・上小遊友タイムの実施
(遊友スポーツランキングや体力づくり)
- ・全力走を行う場の設定
- ・マラソン、縄跳びカードの工夫や頑張った児童の紹介や賞賛の場の設定



【3年生の授業から】



【6年生の授業から】

相談の現場から…

教育センターの「発達相談」も4年目を迎えました。センターには、毎日保護者の方や、児童生徒自身、あるいは先生方など、様々な方が来所されております。皆、一様に明るい表情でお帰りになるのが印象的です。今回は、相談を担当しているセンター3名の学校教育相談員にお話を伺いました。

～インタークの立場から～

私は主に初回の面談を担当させていただいています。最近は「学校から紹介されました」と言って訪れる方が多くなっており、先生方の意識の中に発達相談が根付いていることをとてもうれしく思います。

保護者のお話を伺い、その後に学校での様子を担任の先生からお聞きするようにしているのですが、保護者の方の「困り感」と先生方の「指導内容」がうまくマッチしているなど感じることも多くなってきました。これは先生方が発達の側面から子どもたちを見ておられるからだと感じます。

早期支援が何より大切であると日々感じながら、保護者と向き合っております。これからも支援をよろしくお願ひします。

(談：学校教育相談員 濱野輝子)

～担任の先生と話して感じること～

私は、相談の中で発達検査を実施する機会が多いので、その結果報告を兼ねて担任の先生と今後の方向性をお話することがよくあります。様々な「困り感」を抱えている子どもたちに対して、担任の先生方は、すでに多くの手立てを考えくださっています。その中には、意識して取り組まれていることと、無意識に取り組まれていることがあります。

編集後記

今回は「センター等報告会」「“さくら”学びの窓」を特集しました。各学校の貴重な実践例をきっかけに、情報交換を通してお互いを高めあうことができるように願っています。また、現在センターでは「佐倉市学習状況調査」の集計分析を進めています。4月上旬に報告書を発行します。各校が授業改善に活用できる報告書となるよう努めてまいります。

その子にとって、大切な支援となっていると思われることを私の立場でお伝えすることで、何を重点的に支援していくべきかを考え、一人一人の「応援計画」を立てやすくするお手伝いができるればいいなあと思っています。

(談：学校教育相談員 滝口直美)

～子ども支援の視点～

センターに来る子どもたちの心境は不安と緊張でいっぱいです。初対面でも「わあ～背が高いのね」「髪がきれいね」など、外見の印象をまず認めながら入室してもらっています。検査終了後は「よく頑張ったね」とすかさず握手を求め、達成感を共有するようにしています。そして誰にでも得意、不得意があり、自分とうまく付き合いながら、自分らしく生きていくようエールを送るようにしています。

人は誰しも「見てもらいたい、認めてもらいたい、誉めてもらいたい」という気持ちがあると思います。しかし、課題のある子どもはマイナス面を指摘されることが多く、自分の長所を見失いがちです。

子どもを良い方向に導くための特効薬はありませんが、「寄り添い、認め、誉める」ことで自己肯定感を高め、前向きに活動するようになるのではないかと思います。

(談：学校教育相談員 藤田英子)